

【常滑市指定ごみ袋について】

◆大川秀徳

本市は、ごみの減量化・資源化を目的に平成24年10月1日から家庭系ごみの有料化が始まり、11年が経過しました。指定ごみ袋の利便性向上のため、新たな活用を実施する他自治体もあります。

そこで、以下3点を伺います。

1つ目、指定ごみ袋はサイズ別で何枚ずつ作製しますか。

2つ目、指定ごみ袋の利便性向上のため、今までに改善した点はありますか。

3つ目、指定ごみ袋を地域の事業者と協力してレジ袋として活用している自治体がありますが、本市でも導入してはどうでしょうか。

◎市民生活部長

本市では、平成12年10月に燃えるごみの指定ごみ袋制度を導入し、平成24年10月から燃えるごみの減量化、資源化を目的に、ごみを出す人がごみの量に応じて手数料を負担する指定ごみ袋の有料化を開始いたしました。

さて、1点目のご質問、サイズ別の作製枚数についてでございますが、令和3年度実績で45リットルの大サイズが105万5,000枚、30リットルの中サイズが98万7,500枚、20リットルの小サイズが55万枚、10リットルの特小サイズが17万5,000枚、合計276万7,500枚でございます。

次に、2点目のご質問、利便性向上のため今までに改善した点についてでございますが、当初は大中小の3種類のサイズでしたが、平成26年4月から、ごみをあまり出さない方に対応するため特小サイズを導入いたしました。また平成30年1月には、多言語化対応として、英語、ポルトガル語、中国語の表示とイラスト表記により、ごみの出し方を外国人にも理解しやすいように指定ごみ袋のデザインを変更いたしました。利便性向上策のほかには、平成26年4月から、ごみ袋の帯封に毎年小学生を対象に募集している4R促進ポスターの優秀作品を掲載して、ごみの減量化、資源化の啓発を図り、また、平成30年1月の多言語化対応と同時に、指定ごみ袋にトコタンのイラストを記載して、冷蔵庫の中をチェックして不要なものは買わない、買った食材は使い切る、生ごみは水をよく切ってから捨てるといった生ごみ削減のための行動を啓発しています。

次に、3点目のご質問、指定ごみ袋をレジ袋としての活用についてでございますが、国では、令和元年5月にプラスチック資源循環戦略を制定し、その取組の一環として、令和2年4月1日から全国一律でプラスチック製レジ袋の有料化が実施されました。ご提案をいただきましたように、買った商品を持ち帰る際に、レジ袋購入の代わりに指定ごみ袋を購入して使用すれば、使用後にはごみを出す際に利用でき、レジ袋削減につながる効果は期待できますが、その一方で、幾つかの課題が考えられます。まずは、マイバッグの普及によるレジ袋の利用の減少でございます。レジ袋の有料化をきっかけとして、マイバッグを持ち歩いて購入した商品を持ち帰り、レジ袋を辞退される人が増加しています。本市で令和3年度に実施した市民アンケートでは、92%の人がマイバッグを持参しているとしていまして、マイバッグが広く浸透してきているという結果が出ています。そのため、レジ袋の需要は以前より減っていると考えられます。

次に、販売に係る課題でございまして、販売店等におきましては、現在帯留した10枚単位で販売しているものを1枚単位で販売する負担が生じ、また、市におきましても、一枚一枚に家庭用品品質表示法に基づく表示とバーコードを印字する必要が生じてまいります。こうしたことから、他の自治体の取組などを調査研究する一方で、マイバッグを持ち歩くことをさらに呼びかけるなどして、4Rの一つであるリフューズ断るの周知を図り、レジ袋をはじめとする使い捨てプラスチックの削減を図ってまいりたいと考えています。

【サザンアリーナの利用状況について】

◆大川秀徳

南陵市民センター内にあるサザンアリーナだが、平日の夜間や特に土日祝日の午前午後部の予約が取りづらいと市民から問合せを受けています。

そこで、以下を伺います。

サザンアリーナの予約方法の見直しが必要ではないか。

◎教育部長

サザンアリーナにつきましては、南陵市民センター内の体育施設で南陵公民館西側に平成2年に建設したもので、バレーボール、バドミントン、バスケットボールなどを楽しむことができる施設でございます。現在施設の利用者については、他の公共施設と同様に市民に限定しておらず、利用料や予約時期につきましても、他市町の住民との間で差を設けていません。これは、他市町の施設を常滑市民が利用する場合も同様の条件でございませう。また、サザンアリーナの予約方法につきましては、利用日の2か月前の最初の日から予約を受け付けており、まず南陵公民館窓口で9時から受付を開始し、次に電話受付、さらに正午からはインターネット上の予約システムでの受付を開始するといったように、あくまでも窓口を優先とする段階を踏んだ受付方法としています。

さて、ご質問の予約方法の見直しについてですが、今回の大川議員のご質問と同趣旨のご意見を令和3年12月に利用団体の方からいただいたことがございまして、具体的な状況としては、施設予約のために夜中のうちから順番待ちをする少し加熱した状況が生じていました。これを受けて、担当課が毎月早く並んでいた主な利用団体と情報交換、利用調整に努めた結果、それぞれの利用が重ならないようにうまくすみ分けができたことで、予約する際の負担や課題が改善できたものでございます。また、ここ最近の予約受付の状況について指定管理者に確認しましたところ、南陵公民館の開館時間前8時頃に既に並んでいた人は、今年1月は1人、2月は2人でありましたことから、現状では大きな課題がある状況とまでは捉えていないということでございました。

こうした最近の状況や現場の声を踏まえますと、ご質問のように予約方法の見直しが必要な状況には至っておらず、当面は現行の受付方法を継続してまいりたいと考えています。